

誕生日に母を語る



誕生日は年に一度自分を産んでくれた「お母さん」を思う日…。

地域の中で私たちを育ててくれた母

藤尾さおり (38歳/神戸市)

母は看護師で、今年3月に定年を迎えるまで3交替勤務をしていました。看護学校卒業と同時に結婚。大病院に勤務し、子育てに専念しながら、26歳で弟、28歳で妹を産みました。サザエさんのように、明るく、かなりの天然ハイジのような体型の、空手3段、合気道2段の母です。子どもの頃から、母にたくさんのお話を聞きました。母に大切に育てられたこと、母が子ども会に入っていた当時

子どもに夢を願う前に自分の夢を持とう!

text: 木村 乃
bizデザイン株式会社 dk@biz-design.co.jp

宙を泳ぐ夢をよく見ていた。地面から50cm～1m程度の高さをスイスイと気持ちよく泳いでいたものだ。でも、第一子が生まれた16年前頃から見なくなった。

「親になった」というあまりにも現実的な出来事が、それまで残っていた自分の中の幼さを駆逐してしまっただけではないかと、自分勝手に心理分析している。

「子に夢を託す」という言葉をしばしば耳にする。自分ができなかった目標の実現を子どもに求めるという意味であれば、子どもにとっては迷惑千万だ。そうではなく、自分が子どもだったときと同じように、わが子にも夢を描きながら大きくなってほしいという意味であれば大いに頷ける。

子どもじみた夢、到底実現しそうでない夢をどんどん描いてほしい。現実という壁を知るのには、自分が親になってからでも遅くない。

もちろん、ぼくたち父親も夢を持っていたい。でも、ぼくたちの場合には、さすがに実現できる夢でなくちゃまずいよねっ、お父さん。

オババの育児日記

脱しつけ宣言!

私と孫たちのラブラブタイムは、1週間に一度。娘が遠くに住んでいたなら、こうはいかないので、考えたら幸せなこと。つまりたっくん(孫1号)、とうま(孫2号)の成長を、ウィークリーで見られるというわけ。たっくん(孫1号)は編集部で働いているので、だいたい私のスケジュールを把握している。「今日はお客様が来ないし、比較的ゆとりがある」とわかると、突然に、朝2人を連れて来て、私を喜ばせてくれるのだ。



料理をするたっくん

アルコール中毒ならぬ「孫中毒」の私。会えない日が7日も続くといらいら。なのでたっくん(孫1号)は、気配りではなく、社長のイライラ被害が及ぶことをおそれての作戦だ。そんなわけで1週間ごとに、めきめきと進化している2人を見ることができているのだ。さて相変わらず、しつけが全くできていない孫育て。家では、ママの言うことを聞いてちゃんとごはんを食べるし、片付けもできるのに、編集部にいるときのたっくん、ごはんも食べないし、片付けもしない。特にオババのところは無法地帯。トイレすら直行せず、私のところに来てはもぞもぞ。

先日のこと。用意した夕食に箸をつけず、「卵かけごはんを食べる」ときかない。「たっくん、朝も卵かけごはんだったでしょ。ちゃーちゃん(オババ)が、お魚を焼いてくれたんだから、食べようね」。ママが言うと、「卵ごはんがいい」とさらにゴネた。生卵ばかり食べるのはよくないと、急いで卵どんぶりをつくったが、タマネギを切るときに、慌てて包丁で指を切ってしまった。「血が出て痛いよ～」とたっくんに見せながら、卵どんぶりを出したが、たっくんは一口も食べず、ふてくされて寝てしまった。帰る時間になったが、たっくんは起きないので、パパが抱っこして駐車場へ向かった。車に乗ると、やっと目を覚ましたたっくん。「バイバイ」と言うと、窓越しにたっくんが何やら呟いた。

よく聞かえなかったので、「何?」ともう一度聞くと、「今日はごめんね」と小声でたっくん。私に悪いことしたと心を痛めているのだ。ちゃーちゃんとたっくんは、わかっている。あ～、失敗。いつだってオババは好き放題にさせているのに。だったら、たっくんが食べたいという卵かけごはんを、すぐにでも食べさせてあげればよかったと、中途半端な自分に反省! ヨシッ! オババは孫のしつけは堂々と放棄するぞ! たっくんにとってオババは超スペシャルな人。今だけ許される人でいいや! (藤本オババ)

食を支えるお母さん



生産者グループあすか 水本里美さん(愛知県・49歳)

実りの秋です! 青空にしみいるような、明るい日だいい色に熟した柿が、木の枝に重そうにぶら下がっているのを見るとき、秋がきたなあ...としみじみ感じますね。

「生産者グループあすか」の柿の生産者は総勢60軒。その中で「にんじんCLUB」で取り扱っているのは5軒です。今回はその一人、水本里美さんをご紹介します。家族は夫と高3、中1の娘

みいるような、明るい日だいい色に熟した柿が、木の枝に重そうにぶら下がっているのを見るとき、秋がきたなあ...としみじみ感じますね。

「今年が実が多く付き、間引きの手間がかかっていますが、その分、気持ちを込めて育て

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

「今年が実が多く付き、間引きの手間がかかっていますが、その分、気持ちを込めて育て

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

「今年が実が多く付き、間引きの手間がかかっていますが、その分、気持ちを込めて育て

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。



水本里美さん

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

ました」と里美さん。ビタミンCは果物一。カロチンやタンニン、植物繊維が豊富な柿は、群を抜く健康果実。発がんや老化を抑制し、高血圧など、生活習慣病を防ぐ効果もあります。

取材協力 ● にんじん CLUB <http://www.ninjinclub.co.jp/> にんじんホームキッチン <http://www.ninjin-hk.net/>

前世の本作成プロジェクト立ち上げ



池川クリニック院長 池川 明

■帝京大学医学部大学院卒。医学博士。1989年横浜市に、産婦人科・池川クリニックを開業。「胎内記憶」の研究発表がマスコミで紹介され話題に。著書やDVD多数。

四国にお住まいのフェルメールの娘であつたという記憶を持つ主婦の方から、お手紙を頂戴しました。彼女は、昔からいろいろなことがわかる方だったようです。そしてオランダ人の魂からのメッセージを受け取り、いざ本にするから忘れないようにと、言われ続けていたようです。フェルメールの絵をご存知の方は多いと思いますが、有名なのは「牛乳を注ぐ女」や「真珠の耳飾りの少女」で、日本でも人気の高い画家です。レンブラントと並び、17世紀のオランダ美術を代表する画家とされています。二ユーヨークのメトロポリタン美術館で収蔵されている「眠る女」というタイトルの絵があります。この背景には、黒く塗りつぶされた四角の鏡があり、この絵に違和感を与えています。記憶のある主婦は、「この絵のタイトルは間違っている。どうしても直してもらわなければならない」と考えていて、本を出し、翻訳して英語で伝えることにより、その目的を果たそうとしています。彼女の手紙を一部抜粋します。「フェルメールは偉大な父親になろうという望みから、『眠る女』の奥の鏡を塗りつぶし、その後、娘の生まれ変わりにだけ紐解ける暗号が描かれた謎の絵画を世に残しました。そして何百年という長い間、間違えてつけられたタイトルを元に戻してほしいと願っていた。木靴の少女の魂(注:手紙を書いてる本人の前世の魂。それら置き去りにされている靈魂を私は救わなければならないのだと思います)これだけではイメージしにくいと思いますが、フェルメールの子どもの中で、娘さんが一人病死したらしいのです。それが彼女の前世の人物で、木靴をはいている少女だったそうです。「病死したため、フェルメールは打ちひしがれて彼の最高傑作ともいえる絵の鏡の部分に黒く塗りつぶし、絵を台無しにしてしまった。その父親に悲しみを与えてしまった自分の行為(病死)を償いたい」という思いがあるというのです。最初にお手紙をいただいたあと、彼女には、しばらくの間毎日一方的にメッセージが降ってきたそう、話の続きをメモに残しており、その内容は衝撃的です。フェルメールの娘は、さらにその前世ではレオナルド・ダヴィンチの母親だったらしく、「フェルメールはダヴィンチの生まれ変わりで」と言うのです。モナリザについてもいろいろなメッセージを受けていて、時代を超えた魂の物語となっています。このチャネリングが本当かどうかは確かめようもありませんが、私としてはこの物語を何とか本にできないかと、お母さん大学・お母さん記者の皆さんと、プロジェクトを立ち上げたいと思っています。今後の動きに、どうぞご注目ください。